

地域工務店の生産性高度化に関する実践的研究

担当部科 居住科学部住生活科
研究期間 平成17～18年度

研究の目的

地域密着型の産業の一つとして重要な役割を占める住宅産業は、今後も近代化された地域産業として発展し、良質な住宅供給を将来にわたって維持していくことが求められています。そこで、本研究では、地域で信頼される工務店として良質な住宅供給を維持していくための活動の活性化について検討しています。

研究の概要

本年度は、地域工務店の活性化のための視点を抽出するため、以下の点について把握、分析を行いました。

全道における地域工務店を取り巻く状況

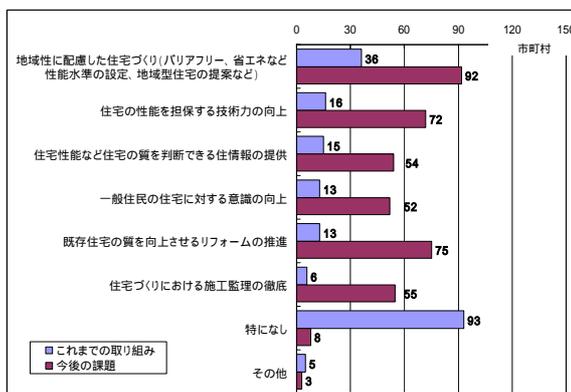
新設住宅の着工件数が特に地方中小都市では低迷している中、小規模な工務店の割合は増加している状況にあります。また、年間確認申請戸数が20戸未満の施工業者の戸数割合が約半数以上を占めており、小規模な工務店の役割には大きなものがあります。

各地域での取り組み・課題

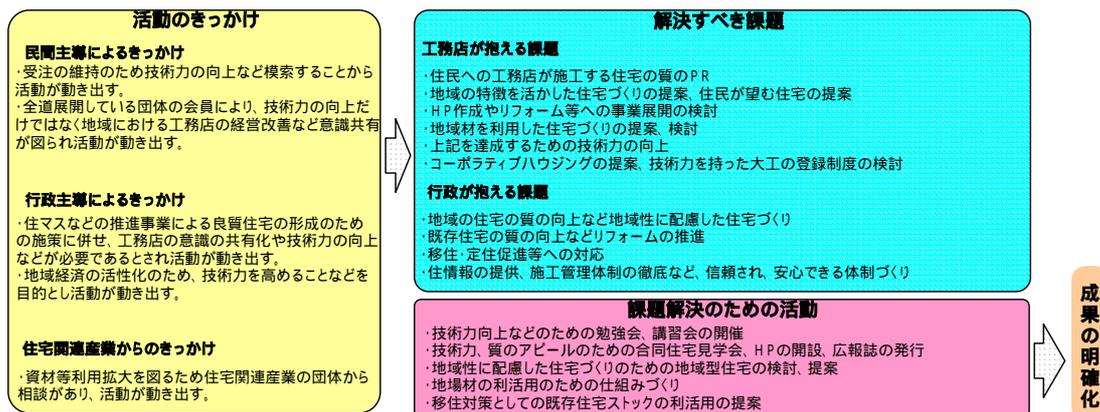
市町村へのアンケート調査により、地域工務店への期待、良質な住宅ストックの形成のための取り組みと課題などについて整理しました。これまで特に取り組みがない市町村においても、地域工務店の活性化や良質な住宅ストックの形成について重視しています(図1)。

既往の地域工務店の取り組み

これまでの地域工務店の取り組みから、活性化のための活動を整理しました(図2)。



<図1 住宅の質の向上のための取り組みと課題>



<図2 既往活動による活性化のための視点の整理>

活用方法・成果

次年度は、市町村、各地域工務店が今後の地域課題への解決を図るための新たな活動を推進していく際に活用できる地域工務店の活動の活性化プログラムを示します。そのため、地域の活動の支援を通じ、活性化のための活動内容の検討・実践・評価を行う予定です。